

「いつでも・どこでも・だれでもワークショップ」技法編

ふるさとの色みつけ

～身近な色から、地域の色まで～



「地域の色・自分の色」研究会

はじめに

身近な「しぜん」や日頃の「せいかつ」を、色という視点で見直し、ふるさとの色みつけをします。

材料は、「くさばな」や「つち」など、子どもたちになじみのあるものが中心です。

道具は、廃材など、いらなくなったものや捨てられるものをできるだけ再利用します。

活動場所は、自分の家、公園や学校など身近な場所から、地域の山や海など、特別な場所へと広げていきます。

内容は、子どもが一人でできるもの、親子で一緒に楽しむもの、学校の探究学習や夏休みの自由研究なども想定し、手順と留意点を詳しく紹介します。

題材は、子どもの関心が、「色みつけ」から「色じっけん」へと広がることを期待し、5分でできる簡単で安全なものから、手間をかけることで達成感を感じられるものまで様々です。

さらに、子どもの探究心が持続できるよう発展的な題材も掲載します。

例えば、子どもたちから要望の多い、「学校や園で作った色を持って帰って、お家の人に見せたい」「土をいただいた〇〇さんに、プレゼントしたい」などの願いをかなえるため、「持ち運び可能」な「ふるさとの色」として、「チョーク」や「クレヨン」への加工方法を新たに掲載します。

草花の色、野菜の色、土の色、地獄の色、炭の色など、多様な色の世界を体験しながら、「色みつけ」を楽しんでもらいたいです。

また、特別な場所、特別な色でなくても、毎日見ているものの中にも、「ふるさとの色」があるかもしれません。

色の探索をとおして、新たな気づきがうまれると幸いです。



2023. 8. 15 小学生低学年用「血の池クレヨン」教材開発WSより

目次

1. オシロイバナってどんな色？
2. ほかの草花でも できるかな？ ～おにわの色～
3. やさいでも できるかな？ ～だいどころの色～
4. プランターの土でも できるかな？ ～土の色～
5. ほかの土でも できるかな？ ～みじかなばしょで～
6. ちいきの どろ でもできるかな？ ～じごくの色～
7. 色が かたまっちゃった！ ～どろチョーク～
8. 色を すきなかたちにしたい！ ～どろのクレヨン～
9. ちいき には ほかに どんな色があるのかな？
10. 「すみえんぴつ」つくってみたい！
11. ほかの木でも できるかな？
12. ふるさとの色 ずかん

色みつけに、
行ってみる？

いってみた〜い！

ほかのものでも
できるのかな？

やってみよう！

わたしたちの身の回りには、様々な草花があります。住んでいる場所や季節によって咲く花も違い、わたしたちの目を楽しませてくれます。こうした草花は、季節の行事や、地域のお祭りなどでも大切にされます。

特別な草花だけではありません。庭に植えている樹木も花を咲かせ種を落とします。花だんの花もそうです。身近なところには、植えたものだけでなく、どこかから飛んできた種から育った草花や雑草もあります。植物たちは、気温や風土といった地域の環境にあわせて暮らしています。「オシロイバナ」もそのひとつです。

オシロイバナってどんないろ？

家の裏庭に、どこかから飛んできた種で毎年、オシロイバナが咲く場所があります。ピンク色でラップのような形をしたかわいい花です。図書館で調べてみると、黄色や白のオシロイバナもあるそうです。

オシロイバナは、黒い種子のなかから「おしろい」に似た白い粉状のものが出てくるので、この名前がつけられた、という話もあります。昔は、子どもたちが、この種を割って、白い粉を取り出して、この粉を「おしろい」のように顔に塗って遊んでいたそうです。また、花の汁をこすりつけて、口紅にしたり、爪に塗ってマニキュア遊びをしたりしていたそうです。



①ピンク色のオシロイバナ



③黒いたねなかの白いおしろい

オシロイバナの色水

色水あそびは、幼児期の代表的な遊びのひとつです。ビニール袋にお花を入れて、両手でよくもんで、水を入れたら出来上がり。カップに注いだら、とってもきれい。光にすかしてみると、もっときれいです。オシロイバナの葉は、どうなるのでしょうか。ためしてみました。抹茶のようになりました。ならべてみると、とてもきれいです。



②花の汁で手がそまる



①オシロイバナの色水



②オシロイバナの葉



③オシロイバナのジュースとお茶

オシロイバナの色だんご～はな～

水をいれない!



オシロイバナの花の色がとてもきれいなので、お花から色を少しだけ分けてもらい、色団子をつくることにしました。ビニールの中で花びらをもんでいくと、色団子ができました。色を濃くするために、水はいれません。色団子で、オシロイバナの絵をかいてみました。きれいな色が、つきました。



①裏庭のオシロイバナ



②花をビニール袋に入れる



③水を入れずに、手でもむ



④色団子になるまでもむ



⑤色団子や手でかいてみる



⑥手がピンク色に染まりました

オシロイバナの色だんご～はっぱ～



⑦オシロイバナの葉っぱをとって



⑧ビニールの中でもみます



⑨水をいれません



⑩色団子ができました。



⑪みどり色ができました



⑫手はあまりそまりませんでした

オシロイバナの色だんごインク

「花の色だんご」をカップに入れて、筆を使って絵をかいてみました。かすれるときは、しょうゆさしで、水を「1つぶ」くわえてみましょう。

インクみたい！



⑬オシロイバナのインク

オシロイバナの「おしろいえのぐ」

オシロイバナの種を、いくつかいただきます。そして、たねを割ってみると、中から白い粉ができてきます。指や手に付けると、ほんのり白くなります。この白い粉に、しょうゆさしで、水を「1つぶ」くわえてみると、「おしろいえのぐ」ができました。



①オシロイバナのたね



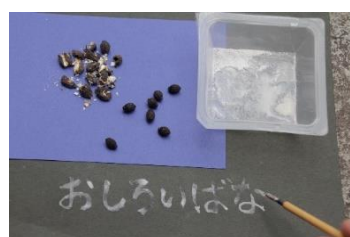
②黒いたねをあつめる



③たねをわると白い粉がでる



④水を1てき入れる



⑤かいてみる (色がうすい)



⑥かわかす (色がでてくる)

かわくと、色がうきだしてくるね。おもしろ〜い。



水を入れるときは、「おしょうゆさし」がべんり！



おしょうゆさし

わかったこと

色水づくりのときは、水を入れる。いろだんごには、水を入れない。いろだんごで、えがかける。水が必要な時は、「しょうゆさし」などで、水を1滴いれる。オシロイバナから、ピンク、緑、白などの色を見つけることができる。



ほかの草花でも できるかな?~おにわの色~

サルスベリの色インク

庭に咲くサルスベリの花。サルスベリは、別名で百日紅（ひやくじつこう）といい、6月ごろから10月ごろまで、長期間、色鮮やかな花を咲かせます。花の色は、赤や濃いピンク、薄いピンクや白色、薄紫など、様々です。我が家のサルスベリがピンク色の花を咲かせました。

そして、季節の変わり目になると、花を落とし始めます。そこで、落ちた花を拾い集めて「色みつけ」しました。



サルスベリ（白）



サルスベリ（ピンク）



①庭に咲くサルスベリ



②花が地面に落ちています



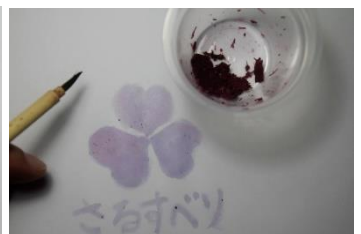
③花を拾い集めました



④割りばしでつぶします



⑤お花のお団子が出来上がり



⑥赤紫色になりました



⑦時間が経つと青紫色に変化

かすれるときは、しょうゆさして水を「1つぷ」いれましょう。



わかったこと

ピンクの花が、赤紫になって、最後は青紫になった。サルスベリは、時間がたつと、色がかわる。



つゆくさの青色インク

ブロック塀のすぐそばや路地に目をやると、青色のかわいい花がめにとびこんできました。「つゆくさ」です。花びらがとても小さく、力を入れると、すぐにつぶれてしまうので、ていねいに、やさしく採取しました。カップの中で割りばしを使ってつぶしましたが、あっというまに色団子になります。割りばしは、青色でそまりました。さっそく、絵をかいてみました。きれいな青色で、絵を描くことができました。水が必要な時は、しょうゆさしで、1滴だけ、いれましょう。



①庭でツユクサを見つけました



②青い花がきれいです



③花びらを採取



④花をカップにいれます



⑤割りばしでつぶします



⑥青い色がきれいです

つゆくさは、色が変わりにくい？



書き終わった後、カップをそのままにしておくと、色団子がカラカラにかわきました。この乾いた色団子を保管しておけば、いつでも、水を1滴いれると青色インクにもどすことができます。



わかったこと

つゆくさは、時間がたっても、色が変わりにくい。
かんそうさせると、長い時間ほぞんできる。
水を1つぶ入れると、もとの青インクにもどる。

やさいでもできるかな?~だいどころの色~

「だいどころ」で、お家の人がお料理をしていると、やさいの皮やへたなど、料理に使われなかった部分は生ゴミとなったり、肥料となったり、お料理いがいの運命をたどります。

おうちの人が飲んだ後のコーヒパックの出がらしもそうです。

「だいどころ」で「いらなくなったもの」をもらって、「色をみつけ」してみたいと思います。



やさいの「カケラ」を
を割りばしでつぶしま
す。すりこ木ですつて
もできます。



やさしい色だね!

ぱぷりか おれんじ



ピーマン あか



ピーマン みどり



コーヒー ちゃいろ



ターメリック きいろ



プランターの土でも できるかな?～土の色～

お家からお庭に出ると、プランターを見つけました。お家の人と一緒に育てている植物のプランターです。

そこから、植物を傷つけないように、少しだけ、土を分けてもらいました。もちろん、つかいおわたたら、感謝のきもちで、もとの場所に土をもどします。

5分のできるどろえのぐ



プランターの土

プランターの土で「どろえのぐ」を作りたいと思います。

付か道具は、カップ2つ、ペットボトル (水)、割りばし (かきまぜ棒) です。



①カップで土をとる



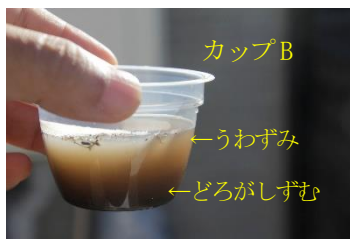
②水を入れる



③10回かきまぜる



④うわずみをカップBにとる



⑤1分ほどでどろが下にしずむ



⑥うわずみだけ、カップAもどす



⑦どろえのぐのできあがり



⑧ゆびでかいてみる



⑨土・どろをもどす

ほかの土でも できるかな? ~みじかな場所で~

はたけ



カップとペットボトル
(水)を持って
でかけよう!



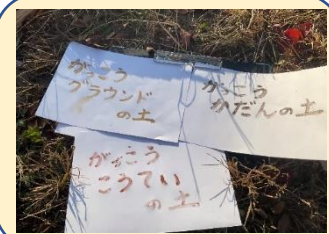
ちゅうしゃじょう



がっこう



こうえん



実践

「どろえのぐ」で遊ぼう ~ふたばこども園~



土に水を入れる



かきまぜる



下に沈むのをまつ



うわずみをカップにうつす



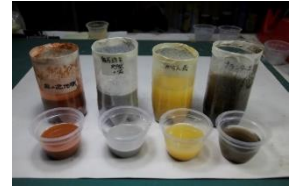
全身の感覚でえがく



5歳児作品

ちいきのどろでも できるかな?～じごくの色～

ちいきには、色々な色のつちやどろがあります。たんぼや畑、山や海などでもみつけることができます。雨上がりの水たまりにも「どろ」がたまっています。「どろ」は土と水があればできます。「つち」と「みず」のあるところには、「どろ」があるということです。



地域のどろ

じごくの「どろえのぐ」

大分県の別府市の「じごく」には、いろいろな色があります(「ふるさとのたからもの」参照)。地獄の方に許可をもらって、少しだけ泥を分けてもらい、地域の色で絵や字をかきました。



どろの採取 (鬼石坊主地獄)



どろの採取 (血の池地獄)

実践

ふるさとの色ワークショップ～鬼石坊主地獄にて R5.10.29



実践

ふるさとの色ワークショップ～血の池地獄にて R6.1.21



いろが かたまっちゃった! ~どろチョーク~

畑の土で「どろえのぐ」遊びをした後、放っておいたら、「どろ」がカチカチになりました。ひび割れもできます。

でも、残念がることはありません。カップから、どろの「かけら」を、こわれないように取り出してみましよう。その「かけら」が「どろチョーク」です。

土の種類などによって、きれいな線が描けるもの、書いている途中でこなごなになるものなど様々です。こなごなになったら、指で描いてみましょう。チョークの「こな」遊びができます。いろいろとためしてみると楽しいですよ。



カチカチになった畑のどろ

ふるさとのどろチョーク

地域の「どろ」でもためしてみました。「プランター(畑)の土」と、「伽藍岳の土」「血の池地獄の泥」「鬼石坊主地獄の泥」とを比べてみました。泥によって、ひび割れも違います。書く時に感じられるかたさもちがいます。



カチカチになった血の池地獄のどろ



ばらばらにくずれました。とてもやわらかい

力を入れるとくずれました。かなりやわらかい

力を入れても形がくずれません。かきやすい

力を入れても形がくずれません。少しかたい

気に入った「チョーク」をティッシュでまいて、セロテープでグルグル巻きにして、もちやすくしました。こうするとこわれにくく、手にも色つきません。血の池地獄の泥で「ふるさとチョーク」の完成です。



血の池チョーク、鬼石坊主地獄チョーク

どろを放っておけば、できあがり。
すごくかんたん!

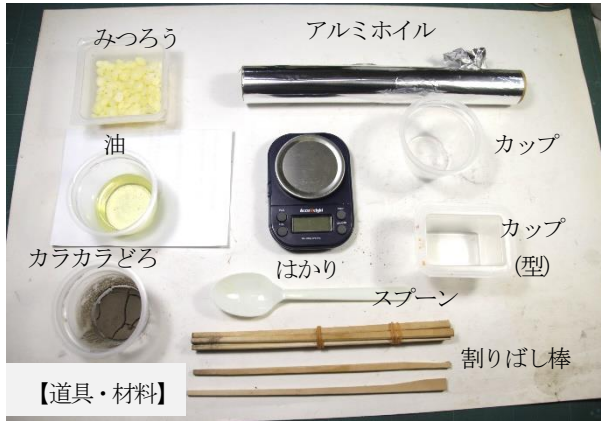


いろを すきなかたちにしたい! ~どろのクレヨン~

身近な土で「どろのクレヨン」をつくってみたいとおもいます。

(下準備) 身近な土でつくった「泥えのぐ」を、カラカラに乾かします(カラカラどろ)。ここまでは、チョークづくりと同じです。乾かした泥を割り箸棒でつぶして、「こな」にします(どろのこな)。これで、下準備は完了です。

(クレヨンづくり) 使う材料は、色のもとになる「こな」(乾燥させた泥の「こな」)、ろう、油です。ろうは、インターネットでみつけた「みつろう」を使いました。品質がよくななくても大丈夫です。安いものをつかきましょう。油は、台所にあった食用油を使いました。



【レシピ】ろう：油：土＝3：3：2を基準に調整



レンジから出す時、カップが熱くなっているので、大人にやってもらおう。



とけた「ろう」が上の方に浮いていて、「どろのこな」が下の方に沈んでいる様子がみえます。このまま、冷やして完成させるときは、よくかき混ぜながら冷やしましょう。

(すきなかたちにする)



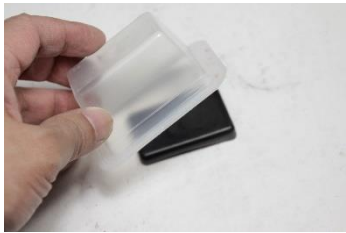
⑧よくかきまぜる



⑨型にながしこむ



⑩固まったら完成



⑪型からはずす



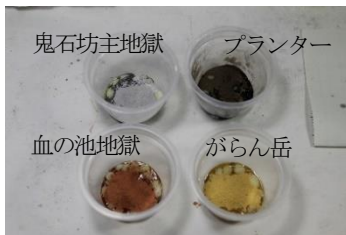
⑫アルミホイルをまく



⑬かけました!

ふるさとのどろクレヨン

地域には、いろいろな色の土があります。ふるさとのどろクレヨンをつくってみました。



同じようにして4色つくります



できました!



ふるさとのどろくれよん

ふるさとのどろクレヨン2

オーブントースターを使う場合は、プラカップでなく、アルミ皿でやるといいよ。

型を工夫すると、ステック型のクレヨンできるよ。



ポイント

ろう：油：どろのこな=3：3：2を基準に調整
失敗したら、もういちど、レンジで「チン」して
やりなおせばよい。※やけどしないように、大人
がいつしょにおこなうこと。

ちいき には ほかにどんな色があるのかな？

海岸や川辺を歩いていると、周りとは少し違う「黒い」色を見かけることがあります。

誰か、キャンプをしたのでしょうか？

何かを燃やした跡（あと）です。黒いと

ころは炭、白いところは灰になっています。

残念なことに、片づけをしないで帰っています。

この黒い炭や灰を片づけていると、手が少し黒くなりました。

炭の黒い色が手に付いたようです。この「気づき」から、黒い炭のかげらが、「えんぴつ？（みたい）になりそうだ」と思い、ためしてみました。



すみえんぴつ

「すみ」をひろって、紙に字を書いてみると、かたいものとやわらかいものがありました。

かたいものは、色が薄くて線がほそく、濃いものは線が太くなりました。

気に入った色の「すみ」にアルミホイルをまいたら、「すみえんぴつ」ができました。



とてもかたく、少し灰色がかった黒色です。

やわらかく、サクサクした手ごたえで、しっかりと、黒色です。

山や森にもあるかなあ？

バーベキューの時の炭？
家にあるかも・・・。

焚火や薪を使っているところ
にあるかも・・・。

キャンプ場とか・・・？

「すみえんぴつ」つくってみたい!

木や枝を燃やしたら、自分でも「すみえんぴつ」がつかれるかもしれません。さっそく、身近な樹木をしらべました。

たけすみえんぴつ

大分県は真竹の生産量日本一です。いたるところに竹林があります。次から次へと生えてくるので、我が家では、年中せん定しています。せん定した竹を使って、「たけすみえんぴつ」をつくってみたいとおもいます。



まわりに何もなし安全な場所

火をつかうところは、必ずお家の人に、やってもらおう。



①釘で、ふたに穴を1か所開ける



②缶に竹を入れる



③15分~20分程度焼く



④冷まして、ふたを開ける

- 1分~開けた穴から煙が出はじめる。(強火)
- 5分~煙が少しずつ多くなる
- 8分~もくもくと大量の煙がでる(強火~中火)
- 12分~煙が少なくなりはじめる
- 15分~煙がほとんどでなくなる
- 20分 火を止める

少しはなれたところから、煙の色と量を観察しよう。



⑤もち手にアルミホイルをまいた

ほかの木でも できるかな？

ふるさとのすみえんぴつ

ふるさとの色、さがしてみよう・・・



身近な樹木でふるさとの「すみえんぴつ」をつくってみましょう。

樹木のせん定をしたあと処分される枝をいただいたり、庭木を整えた時に切り落とした枝をとっておいたりしました。古くてもかまいません。乾燥しているほうがよいです。

我が家では、庭に植えてある梅の木、柿の木のせん定時に切り落とした枝をつかいました。

竹でつくった「たけすみえんぴつ」の他に、梅の木の枝でつくった「うめすみえんぴつ」、柿の木の枝でつくった「かきすみえんぴつ」、そして、割りばしでつくった「わりばしすみえんぴつ」ができました。

木の種類によって、かたさや色が微妙に違います。どれも、黒い色ですが、よく見ると少しだけ灰色っぽくみえるところ、銀色にひかるところなど、えんぴつとはちがう不思議な黒色です。色が出ないときは、先端を少しだけ折ってみるとよいですよ。

火を使うので、必ずお家の人と一緒にやりましょう。



木の枝 (元)



すみえんぴつ完成



わたしが作った「すみえんぴつ」の色

実践

ふるさとの色 ～ふたばこども園の実践～

ふたばこども園の園児が、色あそびの一環として、血の池地獄、鬼石坊主地獄、伽藍岳の泥で作ったクレヨンやチョークを使って「ふるさとの色」を楽しみました。



クレヨンとの出会い



つかってみたい!



鉄のにおい!



おもしろい!



できた!



かざってみる

実践

ふるさとのたからもの ～別府市立鶴見小学校の実践～

別府市立鶴見小学校の2年生が、地域学習の一環として、「血の池チョーク」と「たけすみえんぴつ」、「血の池クレヨン」をつくって、ふるさとのたからものをえがきました。



竹炭えんぴつをつくってみた



血の池チョークをつくってみた



血の池クレヨンつくってみよう



血の池クレヨンできるかな?



血の池クレヨンで描けるかな?



ふるさとのたからもの

ふるさとの色 ずかん

「ふるさとの色みつけ」をとおして出会った「みじか」な色や「ちいき」の色をならべて、わたしだけの「ふるさとの色ずかん」をつくろう。

わくの中に、
見つけた色で
絵をかこう

図でも言葉
や文章でも
いいよ



じぶんのなまえ (

)

おわりに

本書は、「色による探究」のための技法書として作成したものです。身近な土や草木などから色材をつくるという「技(わざ)」であると同時に、「地域」を、「色」という視点でとらえなおすための「技(わざ)」でもあります。

「色みつけ」の過程は、教科横断的です。泥水を光に透かして、重たい粒子が沈んでいく様子を観察することもあれば、絵の具のように使って絵や文字にすることもあります。学校の教科でいう図画工作と理科の学習を行ったり来たりしながら学んでいることとなります。

身に付けさせたい資質・能力は、持続可能な社会づくりの基礎となる力です。

例えば、土採取は、土の所有者の許可を得て行き、残った土は、元あった場所にもどし現状復帰します(p7~8)。相手意識(謙虚さ)、環境への配慮を学びます。

花の色では、落ちた花びらを使うなど、植物の「命」について考えさせます。(p2~5)

出来上がった色に対する子どものつぶやきには、「淡くやさしい色・・・」「きれい・・・」「鉄のおいがする・・・」など、「自然のもつ本来の色(素材感)」への感受性がみられます。(p16)

構成は、「ふしぎ」の解決が新たな「ふしぎ」を生み続けられるよう配慮しています。例えば、泥水が絵の具になり、乾燥させるとチョークになり、それを砕いた粉えのぐ(カラカラ絵の具)はクレヨンの元になります(p9~12)。もとは同じだったものが形を変えて別の色材になっていくことで、「ふしぎ」の連鎖を生みます。

本書が目指すのは、身の回りの物やことに、今までとは違った意味や価値を与えることです。

地獄の泥は排水溝から頂きました(p9)が、それは、排水溝の掃除になります。

野菜のヘタなど、捨てられるものを使うことは(p6)、生ごみとしての運命に、もう一度、「色」という価値を与える行為です。土や草木も同じです。

いつも見慣れているものに光をあてたり、捨てられる運命のものに別の役割を与えたりして、「見方」を変えるところに、「色みつけ」の醍醐味があります。

同じように、わたしたちが暮らす地域にも、見落とされている「よさ」があるかもしれません。そうした、地域の魅力への「気づき&掘り起こし」に、「色みつけ」の「わざ」が役立てば幸いです。

2024年3月31日

「地域の色・自分の色」研究会副代表 木村典之

※本書の技法は、2006年発行 大分大学教育福祉科学部附属中学校研究紀要第52集 木村典之著「“あそび”の中で始まる美術教育の展開」をもとにしたものです。

※実践「すみえんぴつ」は、大分大学教育福祉科学部附属実践総合センターレポート第23号(2003年7月)〈センター研究プロジェクト報告〉「美術・家庭科で育む日本の感性」(神田礼子・木村典之)をもとにしたものです。

※本書の利用にあたっては、「地域の色・自分の色」研究会、「いつでも・どこでも・だれでもワークショップ(技法編)ふるさとの色みつけ～身近な色から地域の色まで～」と明記願います。



色を見分けようとする姿(ふたばこども園)